

第 19 回 全国外洋加盟団体長会議 議事録

開催日；2023 年 9 月 30 日（土）13:15～17:30

会議の場所及び方法：函館アリーナ及び WEB 会議（Zoom）の併用開催

出席者：（理事）

馬場益弘 会長、中澤信夫 副会長、中村隆夫副会長、大村雅一 常務理事、
望月宣武 常務理事、中村和哉 理事、萩原ゆき 理事、鈴木祥子 理事、
石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事、安田大助 理事、沼田浩行 理事、
船澤泰隆 理事

（加盟団体 代表又は代理）

外洋北海道会長 廣田英夫、外洋津軽海峡会長 石川彰（理事兼）、
外洋東京湾会長 足立利男、外洋三崎代表 二松工、
三浦外洋セーリングクラブ会長 飯島洋一、外洋湘南会長 作田智恵子、
外洋駿河湾会長代理 遠藤智（事務局長）、外洋東海会長 大島茂樹、
外洋内海会長 永松馨介、外洋西内海会長代理 小山悟（事務局長）、
外洋玄海会長 沼田浩行（理事兼）、外洋南九州会長 石川国彦、
外洋沖縄会長代理 徳田恭紀、宮城県連外洋部 高橋博之、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、宮川 昌久 外洋安全委員長代理、坂口城治 通信委員長、
三浦伸郎 レースマネジメント委員会外洋小委員長、
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長、
久保田悟 キールボート強化委員長、
坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、
小山悟 外洋艇登録事務局長（外洋西内海会長代理兼）

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で 10：00 より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。
議事

1. 外洋団体長会議について

大村常務理事より今後の団体長会議及び関連会議の日程が説明された。

2. JSAF からの報告

① 体験乗船について

大村常務理事よりヨットでの体験乗船について、資料に基づき以下の報告があった。

大村：最近海上保安部や海上保安署より、ヨットでの体験乗船の場合は旅客定員が必要、或いは不定期航路の申請が必要と言われるケースが出ている。

そこで、国交省海事局に確認したところ、平成 15 年に JSAF が出した「体験乗船に関するガイドライン」が有効であることが確認された。

ヨットの場合の体験乗船は、第 2 種帆船であるので旅客の記載がなくても、体験乗船者は操船補助を行う乗員としての扱いとなる。

体験乗船では、安全教育やロープワーク等の操船の補助を行うことの実態作りが必要となる。

ガイドラインに基づき実施基準を作成して参加艇に配布してもらいたい。

これに対して主に以下の質疑がなされた。

沼田：大学のヨット部の新人の場合も適用か。

大村：問題が無い。

三浦：港則法が適用される場所では注意が必要である。

14 時に馬場会長が会場に到着し、挨拶の中でオランダのハーグで開催されたワールドカップにおいて日本チームが 4 7 0 級で金と銅メダルを獲得したこと、パラワールドではハンザ級で銀メダルを獲得したことが報告された。

② 会長のヨットクラブ回りについて

プロジェクトの趣旨及び 2023 年度の事業計画の資料が配布され、7 月 21 日、22 日に実施された南北海道外洋帆走協会と小樽マリンウェーブの訪問の報告が石川理事よりなされた。

③ 外洋レースの状況

- ・外洋ダブルス日本選手権（レース運営規則改正、2023 実施状況）

大村常務理事より、レース運営規則第 2 章第 1 条の改定について説明がなされ、続けて中村和哉理事より 2023 年 4 月 29 日より 5 月 5 日に開催された外洋ダブルス選手権の報告書に基づき、参加艇が 4 艇で KLC HORIZON 6 が優勝したこと等が報告された。

- ・小笠原レース

レース委員長を務めた石川理事より、カテゴリー 2 で実施し、スタート時はストームジブとトライスルでチェックインしたこと、参加艇は 7 艇で 5 艇が完走、通信に衛星トランシーバーを利用したが繋がりが悪かったこと等が報告された。

続けて、予定されていた中学生と高校生を対象にした体験乗船が、小笠原海上保安署の指導により海上での体験セーリングが出来ず、岸壁に係留してのヨットの見学やロープワークのみとなったことが報告された。

- ・パールレース

第 64 回パールレース報告書に基づき、坂谷実行委員長より以下の報告がなされた。

エントリー数は IRC クラス 46 艇、ダブルハンドクラス 8 艇、優勝は IRC クラス「SUMMER GIRL」、ダブルハンドクラス「THETIS4」、ファーストホーム「DORACONIS」所要時間 25 時間 50 分 31 秒。

④の意見交換は議事進行の都合で時間を繰り下げて最後に議論することになった。

3. 各委員会からの報告

- ・計測委員会

川合委員長より、IRC 申請の推移のグラフが提出され、IRC 証書の発行が減ったことが報告された。

- ・外洋安全委員会

委員長の代理で出席した宮川副委員長より、10 月 7 日～15 日は安全週間であることと、OSR の改定についての報告がなされた。

- ・通信委員会

坂口通信委員長より、今後の海岸局のあり方についての提言、Web コンテンツの立ち上げ、海岸局の所属の確認、オフショア支援事業等についての説明がなされた。

- ・レースマネジメント委員会外洋小委員会

三浦委員長より、全日本選手権の公認レースについて年内の報告書提出のお願いがされた。

- ・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部委員長より、提出された資料に基づき委員会の今年度の方針及び活動が説明された。

- ・キールボート強化委員会

久保田委員長より、2月に開催された大学対抗&U25 マッチレースの報告及び同レースを通じて、学生をディンギーからキールボートへ誘導していくことと、海外キールボートレガッタへの日本チームの参加状況が説明された。続いて、グローブ40に参加した「MIRAI」の中川オーナーよりキャンペーンとレース参戦の概要説明の後、スターリンクを利用して鈴木晶友氏より艇回航の様子が実況で伝えられた。

4. 各団体からの報告

各団体より以下の報告があった。

- ・外洋北海道

10月でシーズンが終わり、これから来年の計画を立てる。

- ・外洋津軽海峡

第36回津軽海峡横断ヨットレースでは表彰式でクラスターが発生し、約120人の内7割がコロナに感染したが、幸い重傷者は出なかった。

8月の第1週に第1回ねぶた祭レースを開催した。

- ・外洋東京湾

レースはコロナ前に戻ったが参加艇が減少傾向にある。

- ・外洋三崎

4月1日に組織変更をし、会員と直接情報交換をするようにした。

9月に新会長及び副会長が決まった。

4つのレースの内2つのレースが中止となった。

- ・外洋三浦

年間約30レースを開催しているが、そのうちの24レースの運営にレース委員長が参加しており、レース運営メンバーの固定化が心配。

- ・外洋湘南

4月1日に応急処置に特化した安全講習会を開催。

30歳以下を対象にした体験乗船を計画したが対象者が1名のみだったので対象者を広げて実施した。オーナー会員にドライバッグを配布。

水域内にはクラブが多くあり、クラブが特別加盟団体になっているのでレースが完結している。

- ・外洋駿河湾

レースは以前のレベルに戻ってきた。

上下レースは運営スタッフが多く要るので、学生の協力を得て運営している。

駿河湾横断レースは悪天候で中止。高齢化が進んでいるが何とかやっている。

- ・外洋東海

来年の沖縄ー東海レースは与那原スタートで開催する。

- ・外洋内海

コロナが落ち着きレースを準備したが台風で中止になったレースがあった。

競技性の高いレースに参加する人が減っている。

和歌山で行っているレースは、今年はスポンサーの影響で中止となった。

- ・外洋西内海

動けるスタッフが減り、レース運営に苦労している。

サミット時にはレースを延期したが、今年は久しぶりに全レースを開催できそう。

- ・外洋玄海

上下のレースは参加艇が少なくレースが成立しない。

博多ヨットクラブと共同開催で島回りレースを開催しているが、競技性のあるレースの参加艇が少ない。

2024 年はアランレースを久しぶりに開催し、スタートは釜山。

- ・外洋南九州

コロナ前より活発に活動している。

5 月に種子島カップ、6 月スマイルカップ、7 月の火山島巡りレースは国体のために錦江湾で代替えレースを開催。

7 月に三島カップ、9 月にメインパークレースを開催。

10 月に国体があり、11 月に全日本ミニトン大会を開催する。

- ・外洋沖縄

座間味レースには53艇が参加。チービシレースは開催したが、伊江島レースは中止。11月に宜野湾ー与那原レースを開催する。

休憩の後、議題2.④の意見交換事項に入った。

- ・JSAF 加盟団体規程案について（問題点等について意見交換）

時間の都合で割愛

- ・理事改選の検討状況について（問題点等について意見交換）

大村常務理事の概略説明の後、望月常務理事が資料に基づき説明し、意見を求めたところ以下の質疑がなされた。

外洋沖縄：県連との調整はできる。

外洋玄海：県連と一緒にあれば問題はない。

外洋南九州：玄海と同様。

外洋西内海：推薦枠が1名で県連と接点がないので進め方が分からない。

ブロックの定員の振り分けはどのようにして決めたのか。

望月：半年前から意見を求めていたが、県連からも外洋からも意見が無かった。西内海から出にくいことは承知している。問題があれば意見を出してもらいたい。

外洋東海：この案は変更ができるのか。

望月：12月の理事会で審議を予定している。修正する必要があるがあれば急ぐ必要がある。

大村：関西と中国は今回初めての案であるので、関係者と検討を行うことにしたい。県連と連絡を取ってもらいたい。

外洋内海：特に意見はない。関西セーリング連盟と連絡が取れている。

外洋東海：東海と駿河湾に女性がいらない。県連に女性がいなければ無理。

望月：今回は激減緩和措置をとり、男2名でも致し方無いと考える。

外洋駿河湾：県連との話はないが、駿河湾は女性が1、2名しかいない。

外洋湘南：女性枠は会長推薦理事と外部理事も50%にすべき。

湘南では女性が27名しかいない、2年後も疑問。

望月：ブロック推薦を止めることも将来考える必要があるかもしれない。

外洋三浦：現在三浦の理事も1名のみである。

外洋三崎：この案で前に進んでももらいたい。

外洋東京湾：都連と話を進めている。

外洋津軽：北海道、東北の県連と協議している。

外洋北海道：会員が10名程度なので役員は津軽海峡にお願いしている状況。

・情報プラットフォームについて（問題点等について意見交換）

望月常務理事より資料に基づいての説明の後に意見を求めた。

説明が事前に出された疑問に対しての回答となる部分もあったが、新システムの具体的な部分が一部不明なため、開発を進めながらさらに意見を求めていくこととなった。

④ その他（JSAF 表彰など）

大村常務理事より表彰について説明がなされ、17時30分に閉会となった。

以上